ハーモニー

Harmony

第101号　2026年11月12日発行

一般社団法人

日本養護教諭教育学会

General Incorporated Associations

Japanese Association of *Yogo* Teacher Education

（一社）日本養護教諭教育学会

事務局：〒162-0801

東京都新宿区山吹町358-5

アカデミーセンター

TEL　03-6824-9398

FAX　03-5227-8631

振替口座：00880-8-86414

jayte-post@as.bunken.co.jp

目　　次

第34回学術集会（愛知）へのお誘い……1

第34回学術集会プログラム……2

第34回学術集会のプレコングレス……5

第6回（2026年度）定時総会（代議員総会）の開催について（予告）……5

養護学の構築にむけたプロジェクトについて（報告）…5

トピックス1）教員養成部会「多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成を加速するための方策について（審議のまとめ）」に対する意見提出について……7

トピックス2）学校における持続可能な保健管理の在り方に関する調査検討会「中間まとめ」について……7

理事会の議事について（報告）……8

事務局からのお知らせ……8

編集後記……8

第34回学術集会（愛知）へのお誘い

学会長　石田 妙美（東海学園大学）

暮秋の候、会員の皆様におかれましては子どもたちの健康、成長発達を見守り支援する活動に日々ご尽力されていらっしゃることと存じます。

2026年11月28日（土）・29日（日）に東海学園大学名古屋キャンパスで開催する第34回学術集会が近づいてまいりました。例年どおり対面とオンラインを併用した開催方式となりますが、ランチョンセミナーとワークショップにつきましては現地会場での参加のみとなります。

1日目は、10時から「養護学の構築にむけたプロジェクト」によるプレコングレスがあり、3年にわたる研究成果をふまえて養護学固有の視点について考えます。

12時50分から開会となり、参加者が一同に会し、学会長講演、特別講演、シンポジウムを通して、メインテーマ「養護教諭の未来をデザインする－Society5.0時代にいきる子どもたちのために－」に迫ります。

特別講演は、愛知県の産業や文化に深く関わってきた「世界のトヨタ」の取り組みとして“トヨタ未来スクール”についてご紹介いただきます。

シンポジウムでは、3名のシンポジストから「Society5.0時代の社会」「子どもたちが直面するだろう健康課題」「これからの養護教諭が有するべき専門性」等についてご提言いただきます。

新しい時代をいきる子どもたちのために養護教諭の未来をどうデザインするかを皆様とともに考えたいと思います。

情報交換会は、会場からバスにて移動し、名古屋城の夜景が見えるＫＫＲホテル名古屋で行います。ベリーダンス、名古屋おもてなし武将隊のアトラクションを予定していますので、ぜひ、ご参加ください。

2日目は、9時から一般演題発表（口演・ポスター）、「養護学の構築にむけたプロジェクト」報告、ランチョンセミナー、総会報告、ワークショップがあります。

一般演題発表は、質疑応答の時間を重視してきた本学会の特色で、一題20分となりますので、積極的な意見交換を期待しています。

ランチョンセミナーは、例年より一社多い協賛となり、「てんかん」、「電磁界ばく露」、「睡眠」の3テーマです。会場準備の都合で、第1希望ではない会場になるかもしれませんが、お席は十分ありますので、当日参加も可能です。

ワークショップは、「養護教諭ジレンマカードで考える専門性」「からだに聴いてこころを整える」「相手の気持ちに届く“声かけ”」「自分らしさに出会う絵本作り」の4企画です。事前申込みをお願いしていますが、当日参加もできます。

多くの皆様のご参加を心からお待ちしています。

【問い合わせ】

事務局：愛知教育大学附属高等学校　圓岡 和子

E-mail：jayte34th@gmail.com

第34回学術集会HP

学術集会参加申込

一般社団法人　日本養護教諭教育学会　第34回学術集会　プログラム

メインテーマ：養護教諭の未来をデザインする　－Society5.0時代にいきる子どもたちのために－

期　日：2026(令和8)年11月28日(土)～11月29日(日)
会　場：東海学園大学　名古屋キャンパス(開催形態：会場とWeb配信によるハイブリッド開催)

≪11月28日(土)≫ 東海学園大学 名古屋キャンパス　3・4号館

◆プレコングレス（10：00～11：30）B会場　429講義室
「養護教諭のまなざしは、子どもの何をとらえているのか～実践に内在する「養護学」固有の視点を探る～」
企画・運営：養護学の構築にむけたプロジェクト、開催協力：理事会

受付（11：00～）3号館2階　学生ホール

A会場 311講義室

◆開会行事（12：50～）

◆学会長講演（13：00～13：40）…… 座長　奥田紀久子（徳島大学）
「子どもたちの『いのち』を守る養護教諭」　石田 妙美（東海学園大学）

◆特別講演（13：45～14：55）…… 座長　石田 妙美（東海学園大学）
「モビリティ社会の将来像と、子どもたちに向けた出張授業の取組事例～トヨタ未来スクールの現場から～」
講師　大道 康彦（トヨタ・コニック・プロ（株）ブランディング事業本部 第2ブランディング部 主幹、トヨタ自動車 日本事業本部 日本事業戦略室 兼務）

◆シンポジウム（15：10～16：50）
「養護教諭の未来をデザインする －Society5.0時代にいきる子どもたちのために－」
コーディネーター　後藤ひとみ（愛知教育大学名誉教授、本学会理事長）
シンポジスト　杉之原明子（特定非営利活動法人みんなのコード 代表理事）
阿部 大樹（西東京市立ひばりが丘中学校 養護教諭）
妻鹿 智晃（帝京短期大学 講師）
ディスカッサント　稲垣 杏菜（愛知県立吉良高等学校 養護教諭）

◆独立行政法人日本スポーツ振興センター制度説明（16：50～17：00）

情報交換会（18：00～）　ＫＫＲホテル名古屋　※会場よりバス移動（事前申込者に限る）

≪11月29日(日)≫ 東海学園大学 名古屋キャンパス　3・4号館

受付（8：30～）3号館2階　学生ホール

◆一般演題発表（9：00～11：50）

口演発表B　（9：00～11：10）　B会場 429講義室

口演発表Ｂ－Ⅰ（9：00～10：00）…… 座長　西岡かおり（四国大学）
【保健管理】
Ｂ－Ⅰ－1　小学校・中学校の養護教諭における月経に伴う諸症状に対するアセスメントと対応
○滝川つぼみ（四国大学）、他
Ｂ－Ⅰ－2　Ａ高等学校の女子生徒の月経随伴症状が学校生活へ及ぼす影響
○高橋 茉弓（福山平成大学）、他
Ｂ－Ⅰ－3　職員健康診断における養護教諭の関わり
○加藤 晃子（学校法人滝学園滝中学校滝高等学校）、他

口演発表Ｂ－Ⅱ（10：10～11：10）…… 座長　留目 宏美（上越教育大学）
【制度】【原論、歴史】
Ｂ－Ⅱ－1　男女複数配置校における養護教諭の役割に関する意識調査　－生徒・教職員の比較から－
○岡本 和浩（前福山平成大学大学院）、他
Ｂ－Ⅱ－2　人類が学び、育て、伝承し、発展する“養護学”－文献研究から求める“養護学”－
○鎌田 尚子（日本栄養大学名誉教授）、他
Ｂ－Ⅱ－3　米国「スクールナース実践の枠組」(NASN)と養護実践についての考察
○面澤 和子（元弘前大学教育学部）

口演発表Ｃ　（9：00～11：40）　Ｃ会場 424講義室

口演発表Ｃ－Ⅰ（9：00～9：40）…… 座長　松﨑 美枝（九州看護福祉大学）

【養成教育】【現職教育】

Ｃ－Ⅰ－1　3回の模擬授業と相互評価が養護教諭志望学生の自己課題の変容に及ぼす影響

○竹内 理恵（徳島文理大学）、他

Ｃ－Ⅰ－2　養護教諭の職能発達・成長を支える省察支援の可能性に関する予備的検討
－ホロニカル心理学に基づく「語りの場」の実践－

○山本 美和（国際医療福祉大学）

口演発表Ｃ－Ⅱ（9：50～10：30）…… 座長　鈴木 裕子（国士舘大学）

【その他（養護教諭・School Nurse）（教育・児童福祉）】

Ｃ－Ⅱ－1　養護教諭・School Nurseによる児童生徒の心の健康問題および心理社会的背景の把握に関するスコーピングレビュー

○毛利 葉月（新潟大学大学院医歯保健学研究科）、他

Ｃ－Ⅱ－2　教育・保育・児童福祉領域における実践者の省察支援と自己理解・子どもの捉え直し・支援方略に関するスコーピングレビュー

○雨宮麻衣子（児童養護施設二葉むさしが丘学園）、他

口演発表Ｃ－Ⅲ（10：40～11：40）…… 座長　下村 淳子（愛知学院大学）

【その他（不登校）（一次救命処置）（性の多様性）】

Ｃ－Ⅲ－1　限局性学習症と学校不安に伴う回避行動との関連　－不登校を学校生活の視点から捉える－

○上村　治（一宮医療療育センター）

Ｃ－Ⅲ－2　一次救命処置に関わった教職員等の心的ストレスとサポートの課題

○田島 典夫（小牧市消防本部）、他

Ｃ－Ⅲ－3　性の多様性に関する態度形成と学校内規範への気づきを促す教員研修教材の開発と検討

○城所 美和（愛知教育大学）、他

口演発表Ｄ　（9：00～11：10）　Ｄ会場 423講義室

口演発表Ｄ－Ⅰ（9：00～10：00）…… 座長　亀崎 路子（杏林大学）

【健康教育】

Ｄ－Ⅰ－1　がんを経験した教諭と養護教諭の協働によるがん教育の実践
－子どもが「自己の在り方」を考える授業づくり－

○倉澤由紀子（新潟市立上所小学校）、他

Ｄ－Ⅰ－2　コミュニケーションスキル形成のための段階的学習プログラムの開発
－コミュニケーション上位スキルに視点をあてて－

○山下　雅（愛知教育大学教職大学院）、他

Ｄ－Ⅰ－3　児童の歯科保健指導における意識づけの形成過程に関する実践研究

○上山　泉（海南市立海南中学校）

口演発表Ｄ－Ⅱ（10：10～11：10）…… 座長　荒川 雅子（東京学芸大学）

【健康教育】【保健組織活動】

Ｄ－Ⅱ－1　養護教諭が実践する援助希求的態度育成カリキュラムの検証
－援助希求を非肯定的に捉える中学生の質的変容に着目して－

○浅生 範子（名古屋市立瑞穂ケ丘中学校）、他

Ｄ－Ⅱ－2　学校ぐるみで取り組む、健康教育の実現を目指して－養護教諭による協働のための組織づくり－

○牧野 紗代（名古屋市立牧の原小学校）、他

Ｄ－Ⅱ－3　ヤングケアラー等への支援に向けた連携チェックリストの改善検討
－養護教諭へのヒアリング調査を通して－

○辻　京子（四国大学）、他

ポスター発表Ｐ　（9：00～11：40）　Ｅ会場 421講義室

ポスター発表Ｐ－Ⅰ（9：00～9：40）…… 座長　大野 志保（大阪公立大学）

【現職教育】【保健管理】

Ｐ－Ⅰ－1　アナフィラキシー対応に関する教職員研修における学びの特徴
－シミュレーション研修と動画研修の探索的検討－

○松田 香織（関市立緑ヶ丘中学校）、他

Ｐ－Ⅰ－２　小学校定期健康診断における経皮的ヘモグロビン値測定機器を用いた
　　児童の貧血スクリーニングの試み－熊本県長洲町－
○清水三紀子（藤田医科大学保健衛生学部看護学科）、他

ポスター発表Ｐ－Ⅱ（9：50～10：50）…… 座長　井澤 昌子（京都女子大学）

【保健管理】【健康教育】

Ｐ－Ⅱ－１　Ａ高校における生理用品の継続的な設置配布による効果についての一考察
　　－２年間の運用実態と生徒の意識・生活の質（ＱＯＬ）の変容から－
○圓岡 和子（愛知教育大学附属高等学校）、他

Ｐ－Ⅱ－２　学校・保健所・医療機関の協働による「いのちと性」を学ぶ思春期保健教育の実践
○外山 恵子（名古屋葵大学中学校・高等学校）

Ｐ－Ⅱ－３　工科高校における学科横断型 PBL 活動を通した学校への帰属意識・自己効力感の形成
　　－「にゃわんロボ」製作実践における学校安全の視点から－
○外山 優治（愛知県立瀬戸工科高等学校）、他

ポスター発表Ｐ－Ⅲ（11：00～11：40）…… 座長　後藤多知子（愛知みずほ大学）

【保健組織活動】

Ｐ－Ⅲ－１　「期待される役割」から「保証される役割」へ
　　－養護教諭の「連携・コーディネート」機能の整理と支援システムの必要性－
○河原さくら（名古屋芸術大学）、他

Ｐ－Ⅲ－２　中学校における発達障害児支援の実際
　　－「チームとしての学校」における養護教諭の役割に焦点を当てて－
○下川 直子（帝京平成大学）、他

◆「養護学の構築にむけたプロジェクト」報告（11：20～11：50）

Ａ会場 311講義室 …　座長　鈴木 雅子（西九州大学）、外山 恵子（名古屋葵大学中学校・高等学校）

「養護学の構築にむけたプロジェクト」三年次報告　－養護学における基盤的知見の統合と合意の形成－
○齊藤 久子（嘉麻市立稲築東義務教育学校）、○齊藤理砂子（淑徳大学）、他

◆ランチョンセミナー（12：00～12：50）※対面参加のみ

ランチョンセミナー①　331講義室 …… 座長　加藤 晃子（学校法人滝学園滝中学高等学校）

「学校におけるてんかん発作への対応」
講師　奥村 彰久（順天堂大学大学院医学研究科 小児思春期発達・病態学 教授）

ランチョンセミナー②　341講義室 … 座長　渡邊 亮宏（一般財団法人電気安全環境研究所電磁界情報センター）

「WHOによる低周波電磁界の健康リスク評価について －送電線や変電所などからの電磁波リスクをどう考えるか－」
講師　大久保千代次（一般財団法人 電気安全環境研究所電磁界情報センター 所長）

ランチョンセミナー③　332講義室 …… 座長　浅田 知恵（愛知教育大学）

「発達期の睡眠・体内時計の特性について」－思春期の「眠れない・起きられない」をどう理解するか－
講師　井上 雄一（東京医科大学睡眠学講座教授 睡眠総合ケアクリニック代々木 理事長）

◆総会報告（13：00～13：30）　Ａ会場 311講義室

◆ワークショップ（13：40～15：40）※対面参加のみ

ワークショップ①　428講義室

「あなたならどうする？『養護教諭ジレンマカード』で考えよう！ 養護教諭の専門性!!」
講師　坂井三代子（養護教諭実践研究会　代表）他8名

ワークショップ②　429講義室

「からだに聴いてこころを整える」
講師　中嶋 一恵（ヘルスカウンセリング学会公認講師）

ワークショップ③　420講義室

「相手の気持ちに届く“声かけ”のつくり方」
講師　井関 明子（東海ラジオ、ZIP-FM などのショッピングキャスター）

ワークショップ④　422講義室

「自分らしさに出会う絵本作り」
講師　竹田 一義（一般社団法人ライフキャリア絵本協会代表理事）

◇企業展示　4号館2階廊下

株式会社少年写真新聞社、東洋羽毛東海販売株式会社、独立行政法人日本スポーツ振興センター
シオン株式会社、株式会社 TENGA ヘルスケア／セイシル、公益財団法人 ライオン歯科衛生研究所
株式会社東山書房、株式会社三和製作所、株式会社トゥーエイト、ネオ製薬工業株式会社
株式会社ロッテ、NPO 法人愛知小児がんの会、社会福祉法人憩の郷

◇◇◇◇ 第34回学術集会のプレコングレス ◇◇◇◇

「養護教諭のまなざしは、子どもの何をとらえているのか～実践に内在する「養護学」固有の視点を探る～」の開催について（ご案内）

養護学の構築にむけたプロジェクト
担当：上原 美子（埼玉県立大学）、
外山 恵子（名古屋葵大学中学校・高等学校）

＜開催趣旨＞

本プロジェクトでは、養護学を一つの学問として捉え、これまでの研究を通して養護学の基盤となる13カテゴリーを整理してきました。現在は、それらを手がかりに書籍から関連する記述を抽出し、意味内容に基づいて分類・精査しながら、養護学の「固有の視点」をより明確にする取り組みを進めています。

本プレコングレスでは、これまでの研究の歩みを参加者の皆様と共有し、「養護教諭のまなざしは、子どもの何をとらえているのか」という問いを通して、日々の実践に内在する専門性の核をともに言葉にしていきたいと考えています。対話を通して養護学の中心にある視点を探究し、参加者の皆様とともに新たな理解を深める機会としたいと思います。当日は会員アンケートの結果も共有し、実践と研究を往還させながら共通理解の形成を図ります。

＜開催日時・場所＞

○ 2026 年 11 月 28 日（土）10：00 ～ 11：30
○東海学園大学 4 号館 2F　B会場・429 講義室
○ハイブリッド開催（対面実施、オンライン参加可）

＜進め方＞

今回は、「養護学の構築にむけたプロジェクト」による企画・運営です。趣旨説明の後、参加者全員で養護学の固有の視点について、グループ別の協議を行います。事前申込みなしで、会員外の方も参加できます。ぜひ、お誘い合わせの上でご参加ください。

第6回（2026年度）定時総会（代議員総会）の開催について（予告）

理事長　後藤ひとみ

本学会の定款第 22 条の規定により、下記日時にて定時総会を開催いたします。代議員の皆様には、会日の 2 週間前までに招集通知等を送らせていただきます。ご多用のことと思いますが、ご出席の程をお願いいたします。

○開催日時：2026 年 11 月 27 日（金）15：00 ～ 16：30
○開催会場：「ウインクあいち」（名古屋市中村区 4 丁目 4-38）10 Ｆ・小会議室 1008
○開催方法：現地参加（但し事情のある方はオンライン参加を可とする）
○主な議事：2025 年度事業報告、2025 年度決算報告、2026 年度事業計画案、2026 年度予算案、2026 年度理事の再任、名誉会員の推戴、選挙管理委員会委員の選出等

●なお、会員を対象として、第 34 回学術集会の 2 日目 13 時から 30 分程の「総会報告」をいたします。オンライン等の詳細は学会ＨＰをご覧ください。

養護学の構築にむけたプロジェクトについて（報告）

代表　徳山美智子（元大阪女子短期大学）

はじめに、「養護学の構築にむけたプロジェクト」は、2025 年度研究課題を「養護学における基盤的知見の統合と合意の形成」と定めました。理事会より要請された 4 つの研究推進項目に加え、プロジェクト独自の取り組みとして書籍等（解説書・報告書・答申を含む）の分析を位置づけました。これらを活動の「5 つの柱」（①理事会とプロジェクトメンバーとの意見交流の成果の整理と活用、②会員の意見の集約と反映、③第 34 回学術集会プレコングレスで得た成果の活用、④書籍等の分析による知見の深化（追加項目）、⑤刊行予定である『養護教諭の専門的領域に関する用語の解説集』の「養護学」の解説の執筆過程で得た知見の活用）として提示しました。現在、これらの柱に基づき研究を進めています。

本号においては①～④について、その進捗の概要をお知らせします。

■理事・監事とプロジェクトメンバーとの意見交流

本プロジェクトは、2026 年 5 月 14 日に理事会との意見交流会を開催し、二年次までの研修会実績とＷＧのレビュー成果を共有しました。研修会を通じて研究内容への理解が進んだ一方、事前調査では、書籍の分析の選定基準や研究段階の捉え方に、一定の理解の差がみられました。これらを踏まえた討議では、二年次までの実績に基づく研究段階の位置づけや概念整理が中心となり、参加者からは、こうした課題の検討こそが養護学の中核領域を明確化し、言語化による共通言語の確立を担保するとの見解が示されました。本会を機に共通理解を深めるとともに、体系化にむけた議論を継続的に行う必要性

が確認されました。三年次を迎えた現在は、素材の精査・構造化を図りながら成果物の提示を目指しています。

■会員向けアンケート調査の結果

齊藤 久子（嘉麻市立稲築東義務教育学校）、
中森あゆみ（公立小学校）

1．実施の目的

本プロジェクトにおいて得られた研究成果に対する会員の評価や意見を集約するとともに、養護学の学術的発展および今後の研究の方向性を検討するための基礎資料を得ることを目的として、正会員を対象としたオンラインによるアンケート調査を 2026 年 9 月 15 日から 10 月 2 日まで実施しました。

2．回答概要と集計結果

メーリングリスト登載者のうちの 65 人より回答を得ました（回答率 13.2%）。所属の内訳は、大学・研究機関 39 人、学校現場（現職養護教諭）20 人、学生・大学院生 1 人、その他 5 人です。

1）学会誌第 29 巻第 2 号「プロジェクト報告」について

報告書を「読んだ」のは 40 人（61%）、「読んでいないので、これから読む」が 20 人（31%）、「読んでいないが、読むかどうかわからない」が 5 人（8%）でした。

2）プロジェクト報告を読んだ人の内容理解について

「十分理解した」9 人と「概ね理解した」28 人を合わせると 92%、「どちらともいえない」2 人と「あまり理解できなかった」1 人を合わせると 8 %でした。

3）報告の副題である“「養護学」固有の特性の明確化”の理解について

「十分理解した」8 人と「概ね理解した」25 人を合わせて 71%、「どちらともいえない」10 人と「あまり理解できなかった」3 人を合わせると 29%でした。理解できなかった理由として、「『養護学』そのものの内容や概念が十分に理解できていないため、その特性を把握することも難しい」という意見がありました。

4）本プロジェクトが今後めざそうとしている 5 項目の中で特に力を入れてほしいことについて（複数回答可）

「養護教諭の実践を学問として体系化する」45 人、「『養護』の独自性・専門性を明確にする」40 人、「『養護学』の定義を明確にする」28 人、「子どもの『心身の健康』を捉える理論を深める」22 人、「養護実践を裏付ける研究方法を確立する」19 人でした。「その他の意見」として、「養護学」という名称の再検討などがありました。

5）本プロジェクトの取り組みに対する意見（要約抜粋）

- 養護実践に関する研究を蓄積し、実践を科学的に説明できる言語へと整理するとともに、研究成果を基盤とした理論モデルや体系の構築を進めることが重要である。
- 養成教育や現職養護教諭、子ども、学校への貢献を見据え、透明性と計画性をもって継続的に取り組むことが期待される。

6）本アンケートへの意見（要約抜粋）

- 報告書を読んでいない会員に対し、理由や関心の有無なども尋ね、多様な会員の意見を把握できる設問にする必要があったのではないか。
- プロジェクトと学会との関係や支援体制を明確にし、研究者だけでなく学校現場の養護教諭の声も取り入れてほしい。

3．結果から読み取れる分析

本アンケート結果から、回答者の多くが「養護学の構築」という本プロジェクトに対して一定の期待を寄せている一方で、現段階の取り組みに対して課題を認識していることが明らかとなりました。課題は、「養護学」そのものへの理解の難しさと、概念の不明確さに起因する戸惑いにあると言えます。また、養護学体系化のプロセスにおいて学校現場の視点をより強く反映させる必要性が示唆されました。一方で肯定的な意見もあり、プロジェクトの意義は広く認識されていることが確認できました。

4．今後の課題

本アンケートの回答率は低く、会員の多様な意見を十分に反映しているとは言い難い結果となりました。また、本プロジェクトの目的や進捗状況、今後の展望の共有が不十分であることが明らかとなり、会員とコミュニケーションを十分に行うことの必要性が示されました。

■第 34 回学術集会におけるプロジェクト報告

「養護学の構築にむけたプロジェクト」三年次報告
－養護学における基盤的知見の統合と合意の形成－

齊藤理砂子（淑徳大学）

第34回学術集会では「養護学の構築にむけたプロジェクト」の三年次成果として、書籍の分析を通して得られた研究成果を報告します。

養護教諭の実践は、子どもの健康状態の把握や健康課題への対応、保健教育、健康相談、校内外の関係者との連携・協働など、多岐にわたります。こうした実践を支える養護学の基盤的知見を整理し、養護学に固有の見方・考え方を明らかにすることは、養護教諭の専門性をより明確にするうえで重要です。

本プロジェクトでは、二年次に抽出した養護学固有の視点 13 カテゴリーの補強・精緻化を目的として、養護教諭養成機関で採用数の多かった上位3冊の教科書・参考書を分析しました。各カテゴリーに関連する記述を抽出・コード化し、書籍間で比較・統合することにより、共通する内容や特徴を整理しました。その結果、子どもの主体性の尊重、全人的理解、発達と自立への支援、専門的判断、保健管理と保健教育の統合、校内外との連携・協働など、養護学の基盤的知見を構成する多様な要素が見出されました。今回の発表では、これらの分析結果を紹介するとともに、養護学の基盤的知見として何が重要なのか、養護学に固有の視点をどのように捉えることができるのかについて、検討の成果と今後の課題を報告します。さらに、書籍・資料の追加による知見の補強・精緻化や、13 カテゴリー間の横断的な比較・統合を通して、養護学の中核概念を明確にしていく方向性を示します。

養護学の構築には、研究成果の蓄積に加え、養護教諭の

実践や研究に携わる皆様との対話を通した共通理解が欠かせません。学術集会では、これまでの成果を共有し、皆様とともに養護学の基盤となる知見について考え、意見を交わすことで、共通理解を深め、合意の形成につなげていきたいと考えています。ぜひご参加いただき、養護学のこれからについて、ともに考える機会となれば幸いです。

トピックス

今回は、本年9月以降の2つの動きについて報告・説明いたします。

理事長　後藤ひとみ

1）中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会「多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成を加速するための方策について（審議のまとめ）」に対するパブリックコメントへの意見提出について

みだしの（審議のまとめ）が令和8（2026）年9月17日に公表され、10月19日必着で意見募集（パブリックコメント）が行われました。情報収集が遅くなり、期限当日となりましたが、本会の要望等を提出しましたことをご報告いたします。

文部科学大臣から中央教育審議会（以下、中教審）に「多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成を加速するための方策について」の諮問がなされたのは令和6（2024）年12月25日です。その後、中教審の初等中等教育分科会教員養成部会で審議が行われ、今般、その結果がまとめられたことになります。

パブリックコメント後は、更なる審議をふまえて大臣への答申がなされ、関係法規の改正、再課程認定の実施、新教員養成カリキュラムの実施（2030年度入学生）へと進む見通しです。

本学会が提出した意見は学会誌第30巻第2号に掲載しますので、ここでは概要の説明にとどめ、今後発出される答申案や法改正案の理解及び意見整理に役立てていただければと思います。

【（審議のまとめ）に至るまでの中教審の審議経過】

令和7年9月19日の教員養成部会で、部会のもとにワーキンググループ（以下、WG）を設置し、WGのもとに作業部会を設置して審議を行うことが決定されました。その後の審議結果は下記において報告されています。

①令和7年10月15日：教員養成部会
「多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成を加速するための方策に関する論点整理」
②令和8年1月19日：教職課程・免許・大学院課程WG
「今後の教職課程や教員免許制度の在り方について（中間まとめ）」
③令和8年5月18日：養護教諭・栄養教諭作業部会
「養護教諭・栄養教諭の今後の養成・採用・研修の在り方について 議論のまとめ」
④令和8年6月16日：教職課程・免許・大学院課程WG
「今後の教職課程や教員免許制度の在り方について（二次まとめ）」
⑤令和8年9月17日：教員養成部会
「多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成を加速するための方策について（審議のまとめ）」

【本学会から提出した意見の概要】

上記⑤の（審議のまとめ）への意見をまとめるにあたり、理事会の了承のもとで広報委員会に原案作成を依頼しました。さらに、①～④のうち特に③④の内容を確認した上で意見案を作成し、常任理事会及び理事会に提案し、その後に提出しました。概要は次のとおりです。

＜改革の方向性について＞

①教師のなり手不足の深刻化・採用倍率の低下等とは異なる養護教諭の状況をふまえた方策：複数配置の拡充、研修サポート体制の整備、必置制の実質化の要望。②大学と教育委員会が一体となって行う養成・採用・研修：養護概説担当者の必置、養護教諭経験のある指導主事の配置を要望。

＜主な改革事項について＞

①教職課程の質と量の担保・向上：「学校保健・学校安全」の必修化を要望。②基礎的な免許状、標準的な免許状、上級の免許状への再編：三種の違いや運用に関する実装的内容の説明を要望。③道徳、総合的な学習の時間及び総合的な探究の時間並びに特別活動について、それらの指導法も含め学修すること：複数配置の拡充と加配措置、職務の重点バランスのモデル化を要望。④心理及び福祉に関する内容を全ての学生が学修するとともに、強み専門性の一つとして、「心理」や「福祉」を位置づけること：養護教諭のみに強調される理由の説明を要望。

◆（審議のまとめ）は下記をご覧ください。
https://www.mext.go.jp/content/20260917-kyoikushokuin-000052138_1.PDF

2）学校における持続可能な保健管理の在り方に関する調査検討会「中間まとめ」（令和8年9月11日）に対する関係団体の主な意見について

令和7（2025）年4月18日に、みだしの調査検討会が文部科学省に設置され、保健管理に関する次のような課題について、現状把握・分析、専門的見地からの意見聴取等を行っています。

①学校の健康診断の検査項目の意義やプライバシーへの配慮等の実施方法
②保健管理にかかる教職員の負担
③学校医の確保
④その他必要な事項

同年5月19日に第1回会議が開催され、本年9月11日に「中間まとめ」が公表されました。この内容に対して、17の関係団体に意見提出が求められ、10月9日開催の第9回会議において資料1「関係団体からの主な意見」が配付されました。

意見提出団体は、校長会関係、教育委員会関係、私立学校関係、教職員団体・職能団体、大学関係団体、保護者関係に区分されており、教職員団体・職能団体として全国養護教諭連絡協議会と日本養護教諭養成大学協議会にも意見提出が依頼されました。

中間まとめの目次にそった意見は32頁あり、団体名を除いた40箇所で、養護教諭のことに触れています。その大半は、養護教諭を含む教職員の業務負担を懸念するものであり、その対応策として複数配置の拡充を望むものでした。調査検討会の設置期間は再来年3月31日までですので、今後1年余りで実施項目・実施方法、実施時期、プライバシーや心情への配慮等が具体化されます。児童生徒等の定期健康診断については厚生労働省や日本医師会等によるコメントにも注視し、学校における保健管理の在り方を考えていく必要があります。

◆「中間まとめ」は下記をご覧ください。

https://www.mext.go.jp/content/20260911-mxt_kenshoku-000052058_2.PDF

理事会の議事について(報告)

総務担当常任理事　塚原加寿子

ここには審議事項のみを掲載しました。議事録の詳細は、学会誌第30巻第2号(2027年3月末発刊予定)に掲載します。

<2025年度第2回理事会>

1．日　時：2026年6月10日(水)19:00～20:50
2．場　所：Webシステムにて開催
3．出席者：理事15名(欠席1名)、監事2名
4．審議事項
1）第6回(2026年度)定時総会(代議員総会)の開催日時について
2）第34回学術集会(愛知)の開催プログラム等について
3）第34回学術集会における「養護学の構築にむけたプロジェクト」の報告について
4）代議員の異動に伴う選出地区での補充について
5）名誉会員の推薦について
6）次期役員選挙の準備について
7）第36回学術集会の開催地について
8)「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集＜第四版＞」の刊行準備について
9）中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会による「今後の教職課程や教員免許制度の在り方について(二次まとめ)(案)」及び「教職課程認定基準改正(案)」や教育職員免許法改正等の動きについて

＜2025年度第3回理事会＞

1．日　時：2026年10月7日(水)19:00～21:09
2．場　所：Webシステムにて開催
3．出席者：理事15名(欠席1名)、監事2名
4．審議事項
1）第6回(2026年度)定時総会(代議員総会)の議事項目等について
2）名誉会員候補者の推薦について
3）次期役員選挙にむけた選挙管理委員会委員の推薦について
4）2026年度助成金研究の募集結果について
5）第36回学術集会の開催地について
6）中教審による教免法改正への対応について(養護教諭・栄養教諭関係)
7）J-stage の作業について

事務局からのお知らせ

総務担当理事・事務局長　加藤 晃子

会員の皆様には、平素より学会運営にご理解とご協力を賜り深く感謝いたしております。

●2026年度年会費の納入をお願いいたします。

2026年度(会計期間は2026年10月1日から2027年9月30日まで)の年会費振込票をお送りしていますので、早めの納入をお願いいたします。

●「会員登録」の変更をお願いします。

職場の異動等で「会員登録」情報に変更のある方は、学会HPまたは学会誌巻末の変更届にてご連絡ください。

●メール登録をお願いします。

未登録の方は、至急、右のQRコードまたは学会HPからお知らせください。

●『養護教諭の専門領域に関する用語の解説集＜第三版＞』について

残部が20冊程となりましたので、まもなく販売を終わらせていただきます。ご入用の方はお急ぎください。

なお、第四版の刊行を進める予定ですが、詳細は後日連絡いたします。

●学会HPでの学会誌の掲載について

第29巻第1号・第2号は、第30巻第2号発刊(来年3月末予定)の後に掲載いたします。

編集後記

第34回学術集会(愛知)のプログラムを見ると勉強したい、体験したい、日常を忘れてリフレッシュしたいと好奇心が刺激されますね。また、トピックスでは養護教諭の仕事がもっと良くなるように、一緒に政策を作っている感じがします。最新の情報はハーモニーと学術集会で手に入れて、時代を先取りしていきましょう！

(山本 訓子、荒川 雅子)